

道路交通環境に関するアンケート結果

(実施期間 3/10～4/30)

【資料②】

アンケート調査結果と解説

回答数：1708 名（会員：983 名 一般：725 名）

【資料②】

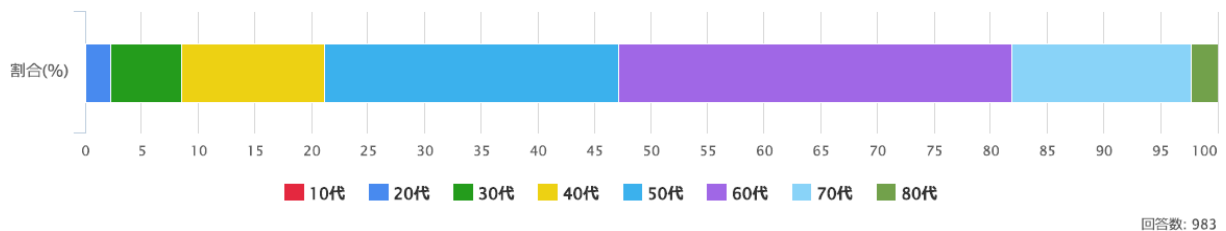
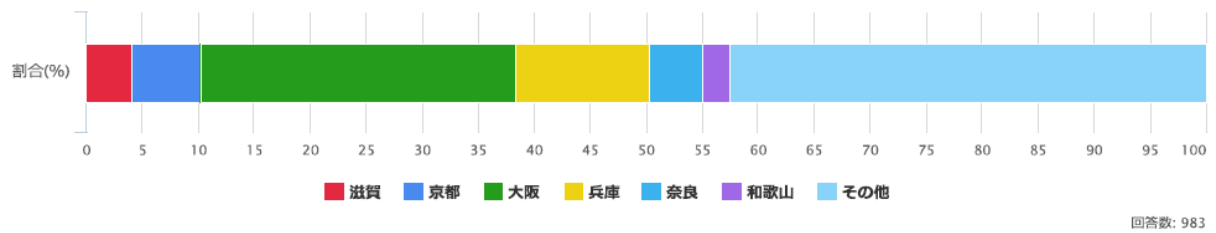
2. アンケート調査結果の解説

(1) アンケート情報

【会員の方：983名】

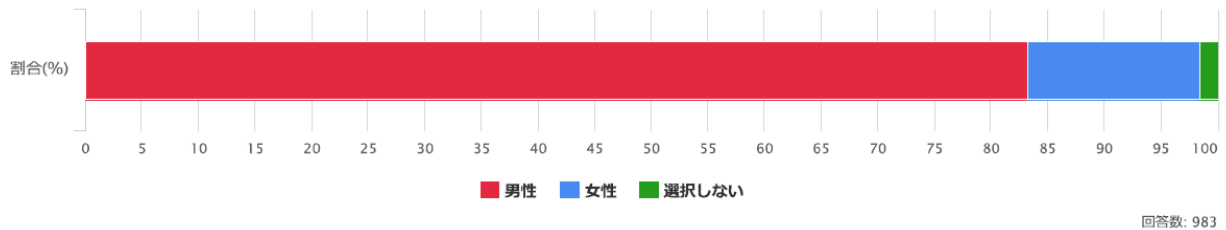
Q1

お住まい（その他の方は都道府県を入力してください）



Q3

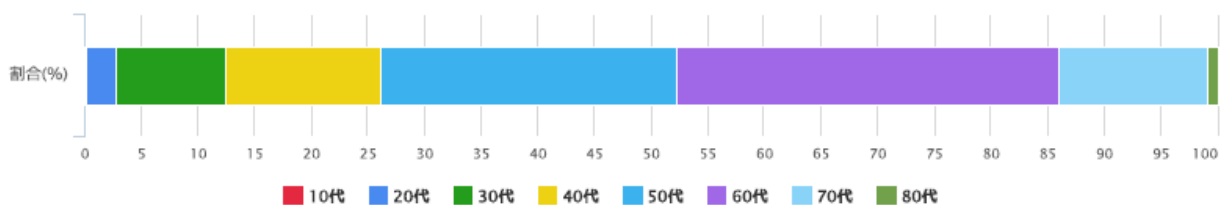
ご性別



【一般の方：725名】

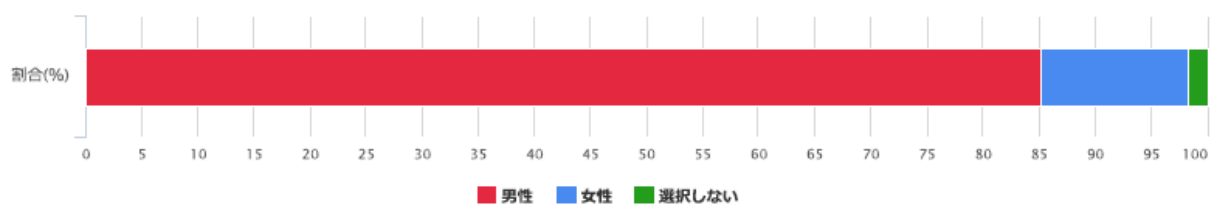
Q4

ご年齢



Q5

ご性別



(2) アンケート概要

【認識度調査】～知っている～

①知らない/②聞いたことはある/③名前は知っているが内容は知らない

④内容も知っている/⑤内容も知っているので気を付けて運転している

⇒ スクールゾーン キッズゾーン

⇒ 安心歩行エリア ゾーン 30 ゾーン 30 プラス

⇒ ハンプ 狭さく・シケイン

■特に気を付けていること（上記⑤を選んだ方のみ回答、単一回答形式）

・ゾーンに入らない/子供たちに気を付ける(自転車歩行者を阻害しない)/

速度を落とす/交通規制に注意する/

・ハンプの標識見たら減速/ハンプ手前から減速/ハンプ通過後加速しない/

ハンプ前後での急減速・加速しない

・狭さくで対向車確認後減速/張り出し側なら譲る/張り出し部の接触注意/

対向車が無くても速度抑制

【知名度調査】～見たことがある～（ある・ない どちらかを選択）



スクールゾーン（出典：国土交通省）



キッズゾーン



ゾーン 30



ゾーン 30 プラス



ハンプ



狭さく



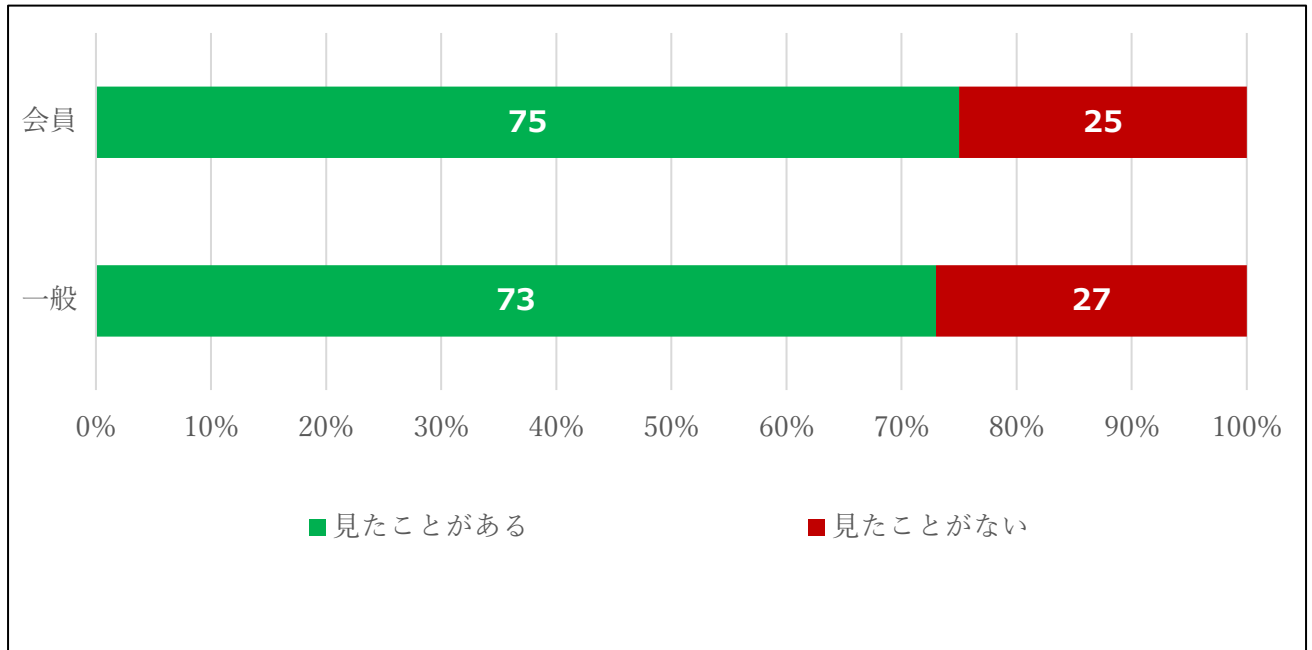
シケイン

(3) アンケート結果：

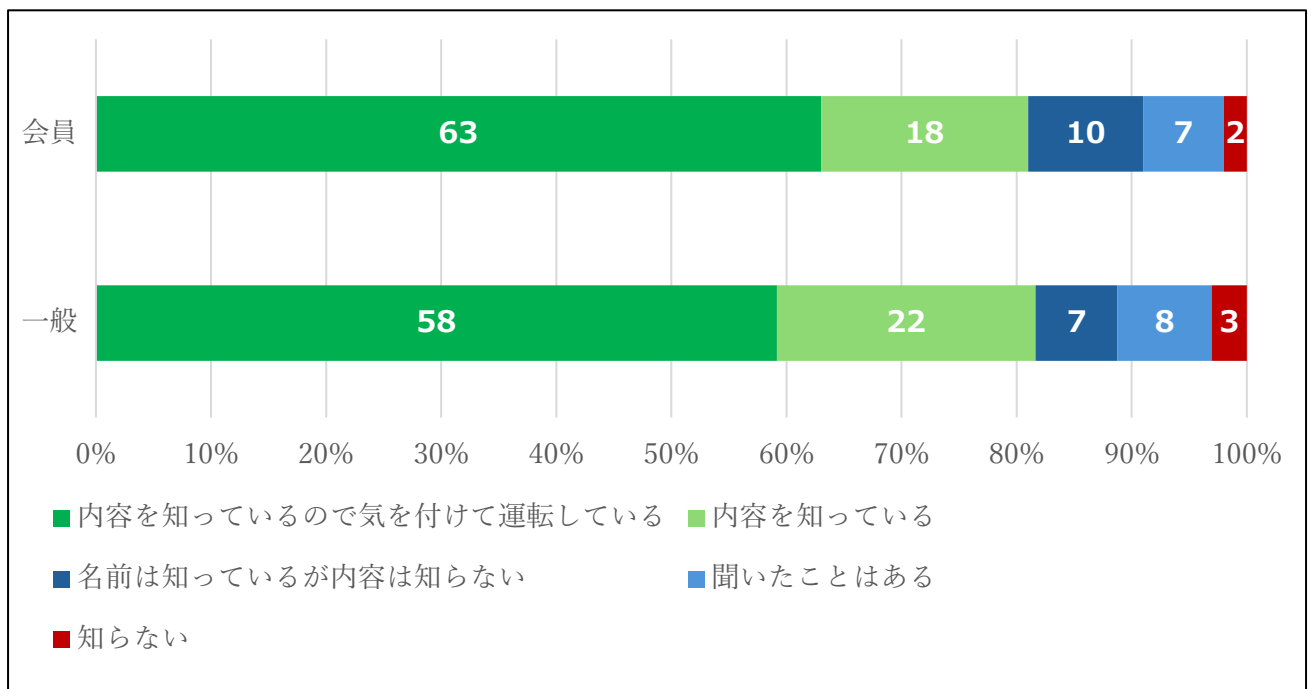
日野 泰雄氏・伊勢 昇氏（和歌山工業高等専門学校 環境都市工学科）作成

【スクールゾーン】

①路面標示の知名度

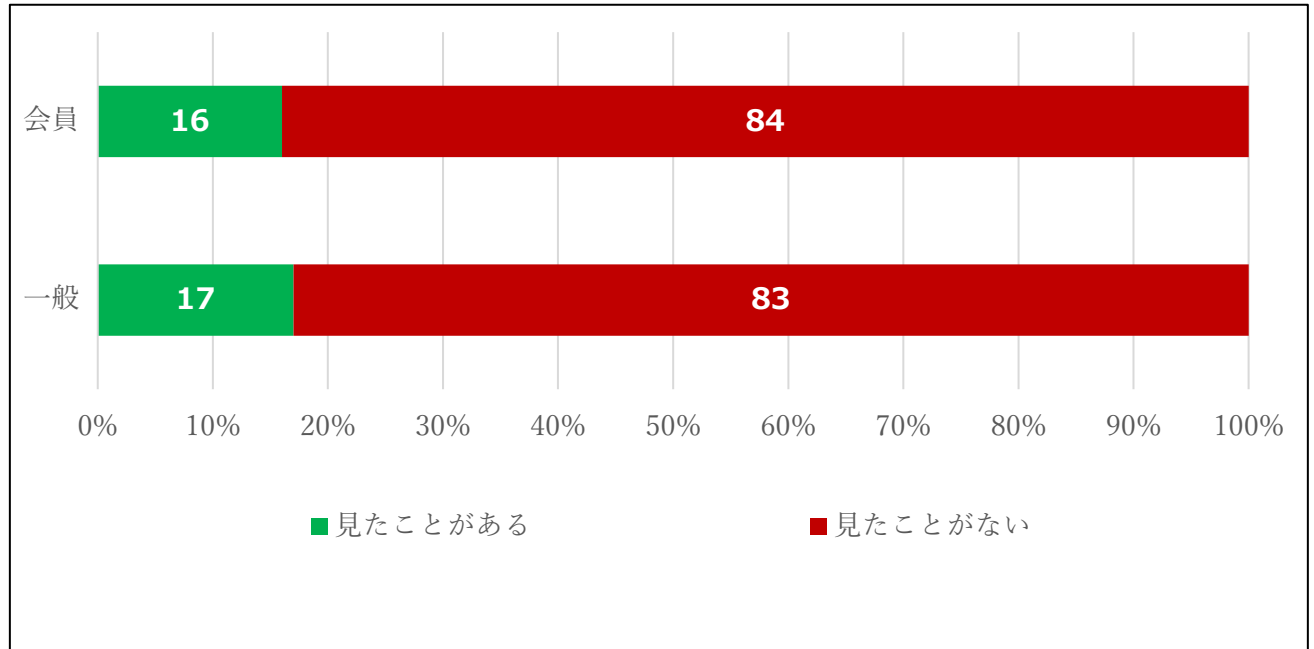


②認識度

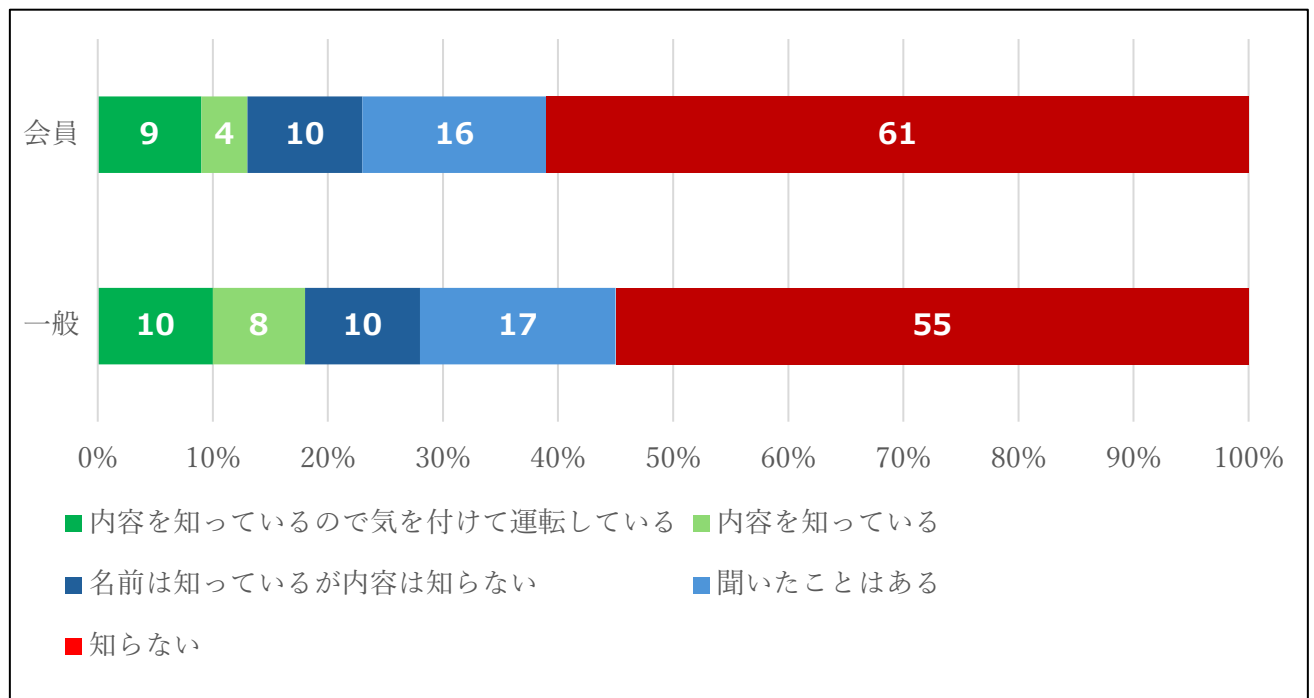


【キッズゾーン】

①路面標示の知名度

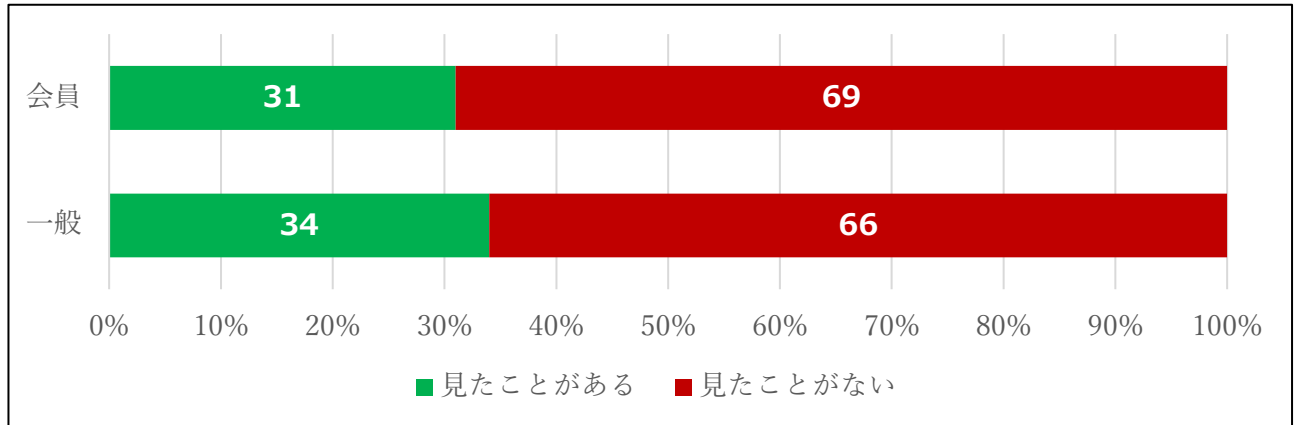


②認識度

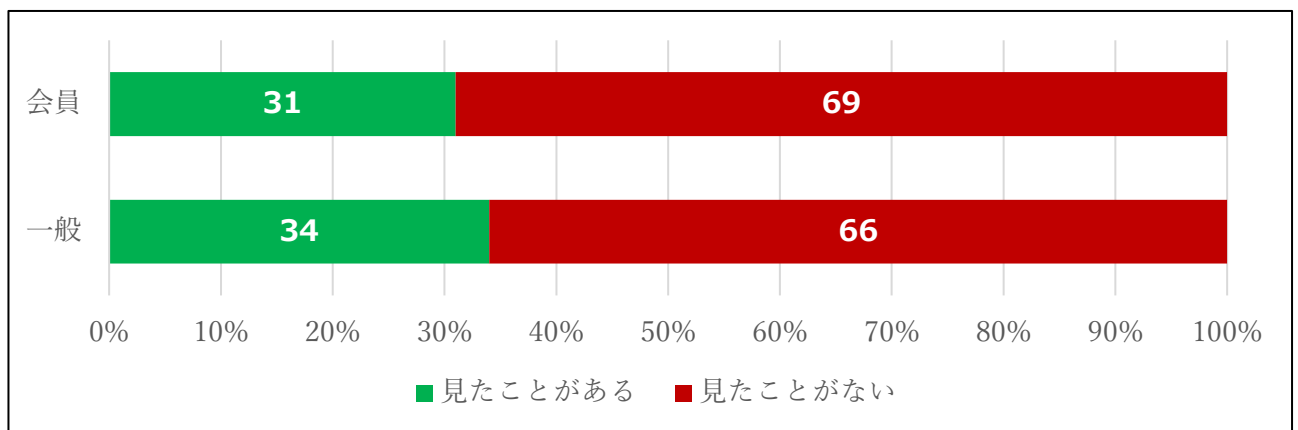


【ゾーン 30】

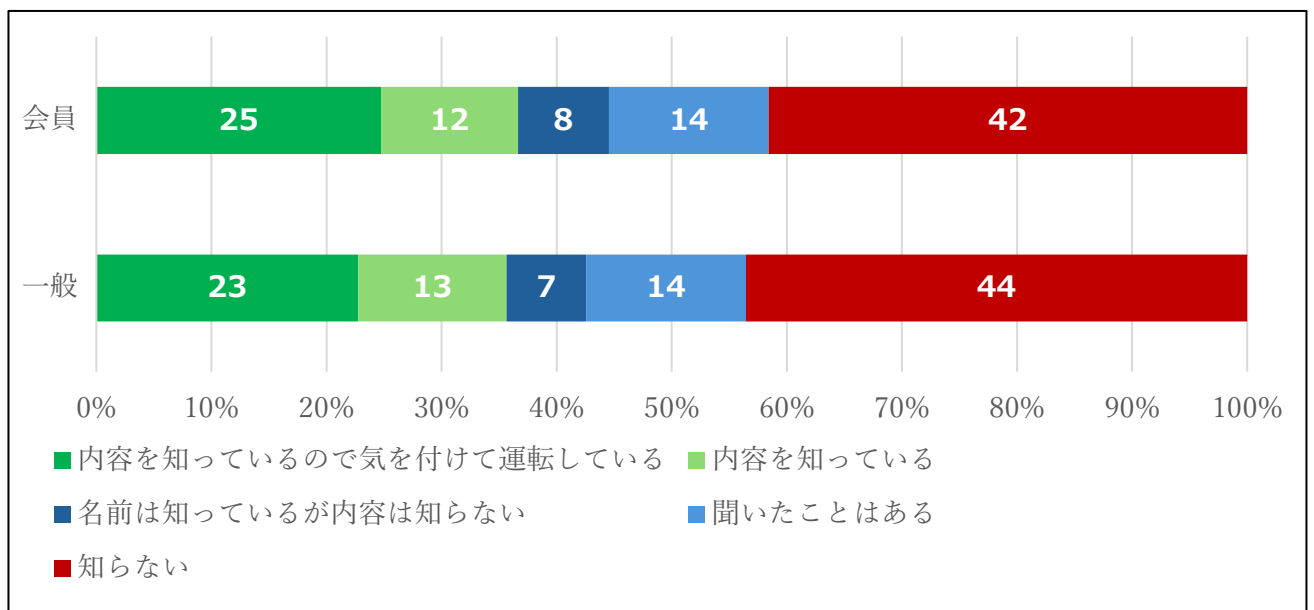
①路面標示の知名度



②標識（看板）の知名度

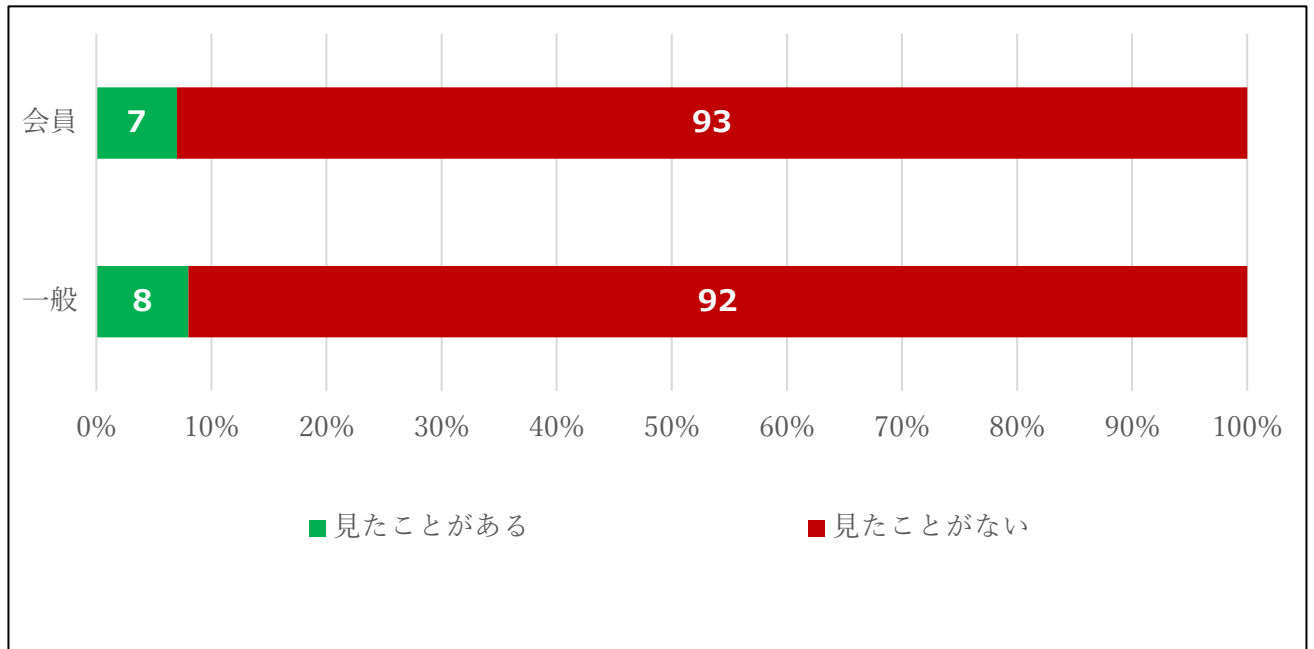


③認識度

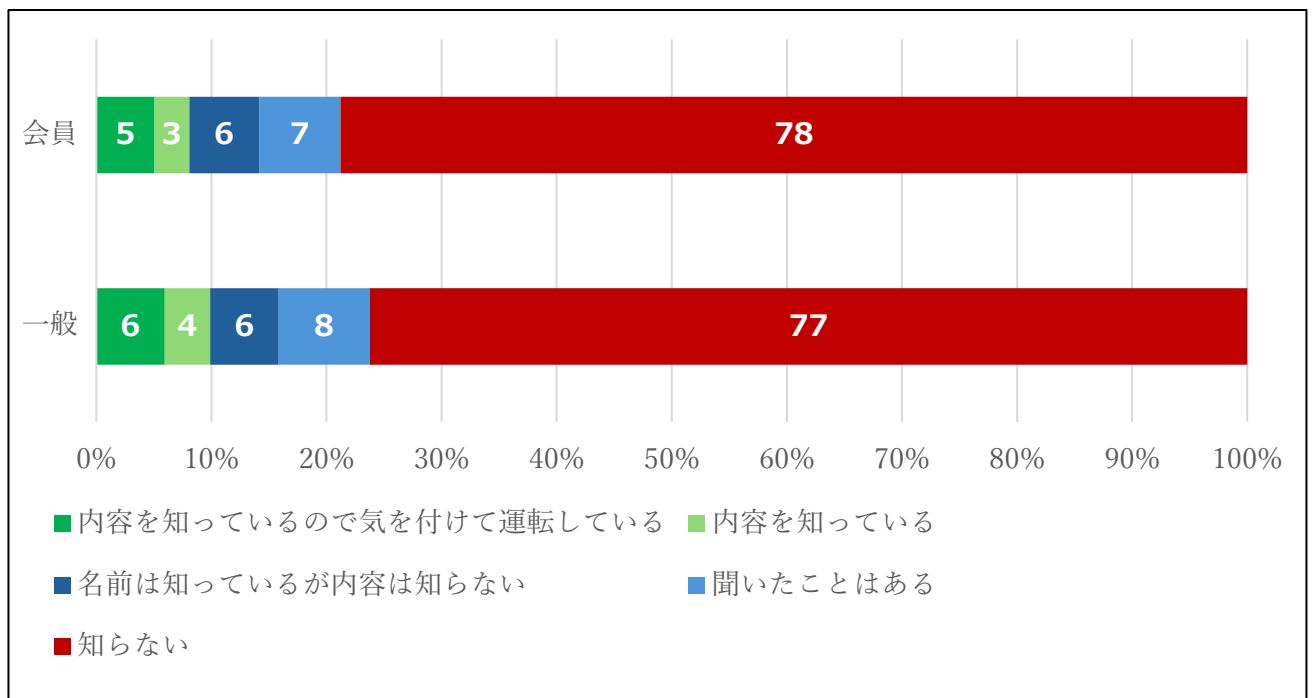


【ゾーン 30 プラス】

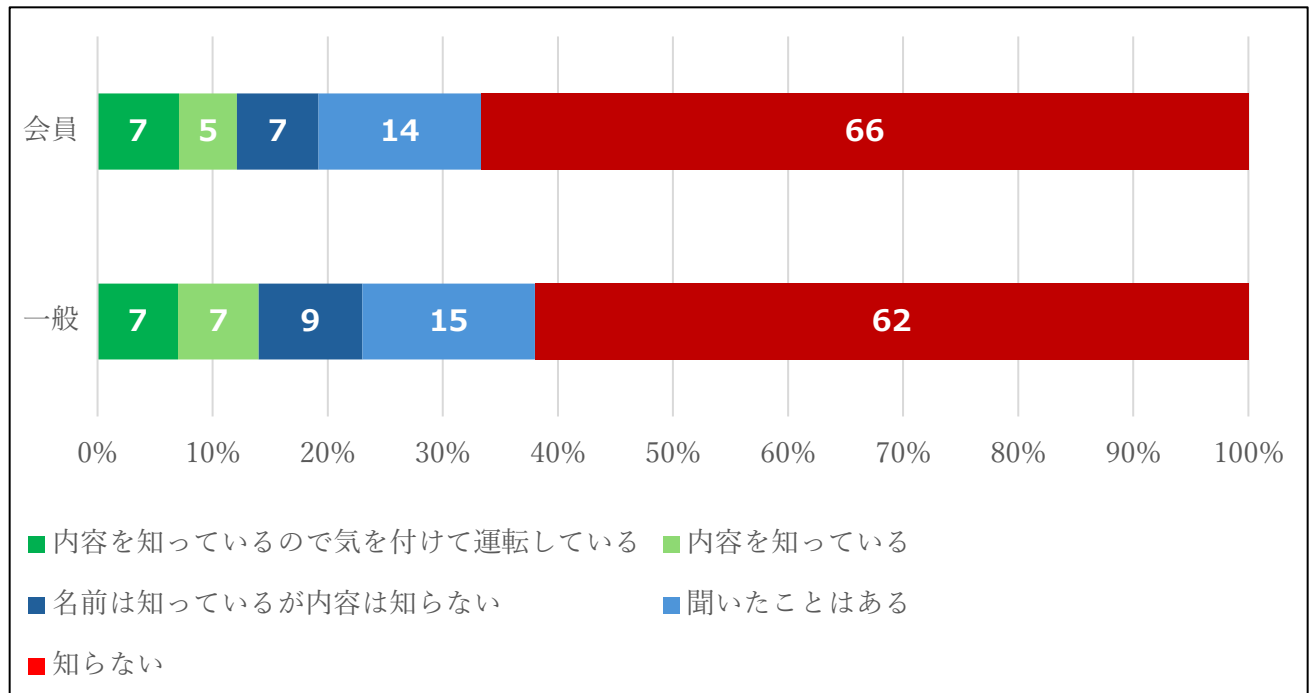
①標識（看板）の知名度



②認識度

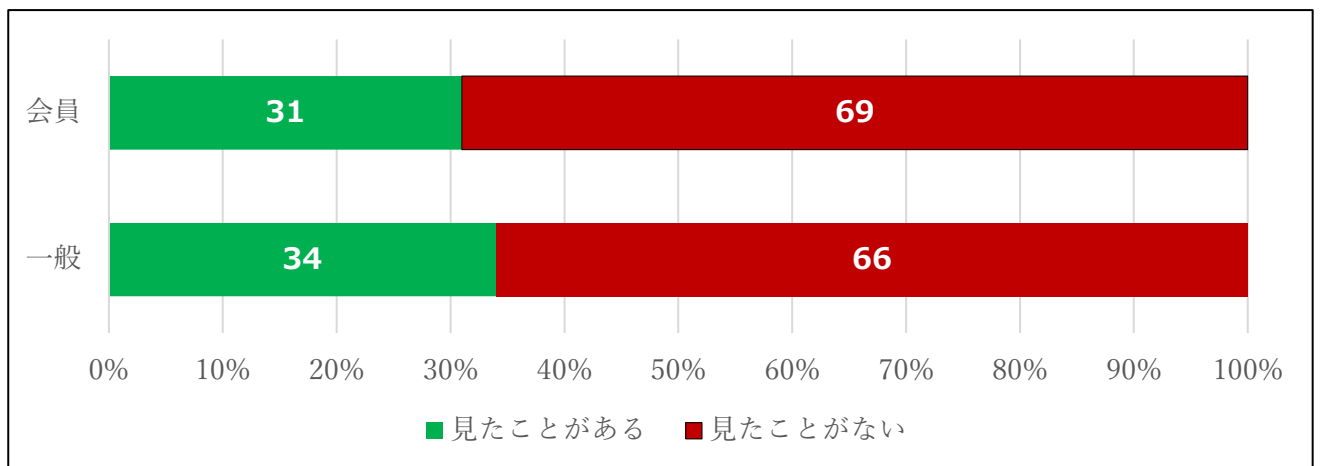


【あんしん歩行エリア・認識度】

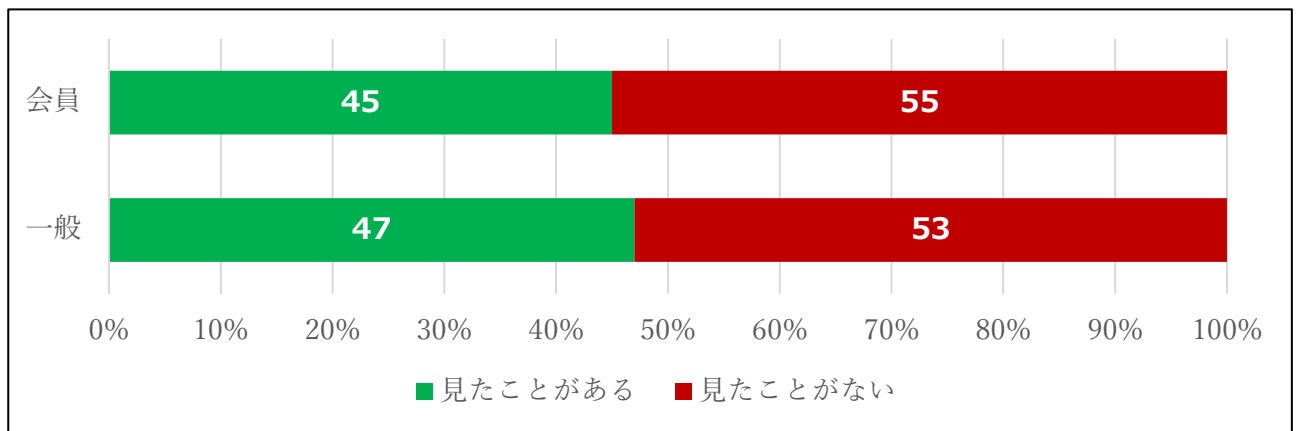


【ハンプ】

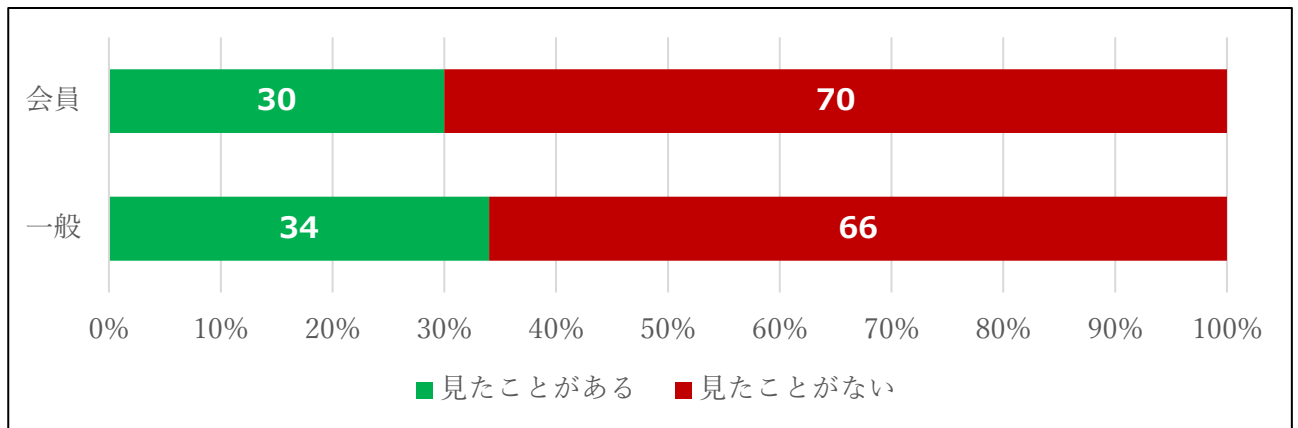
①ハンプの知名度



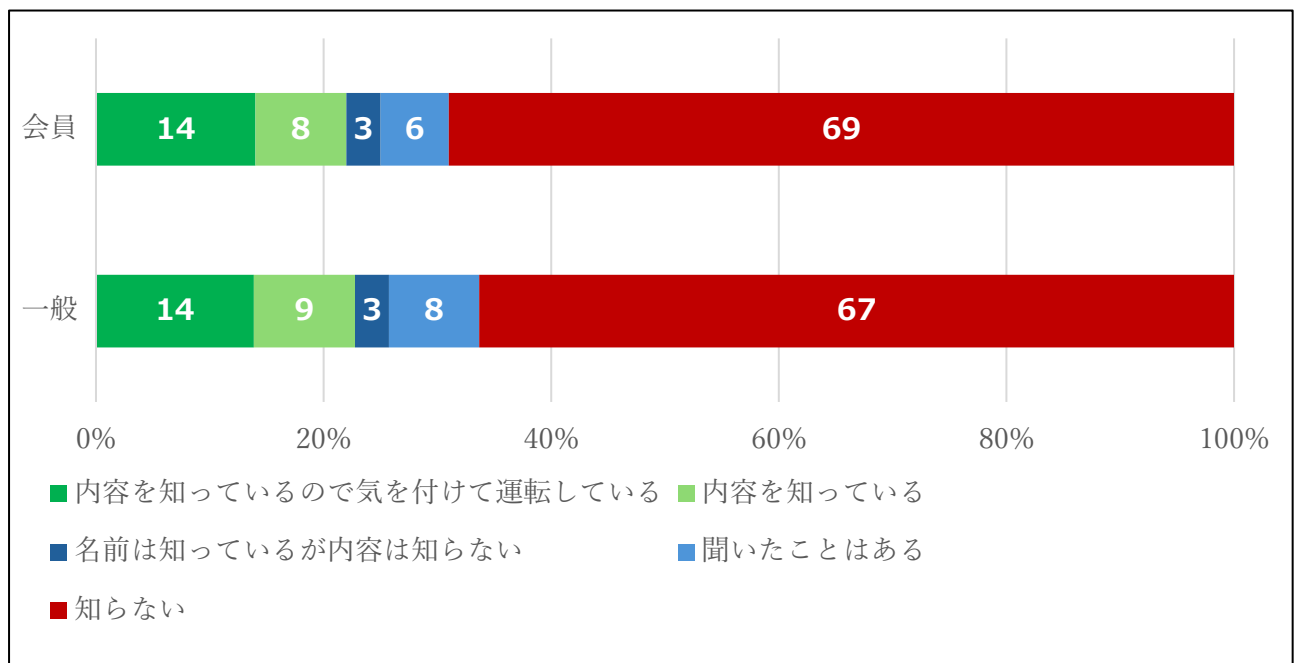
②路面標示の知名度



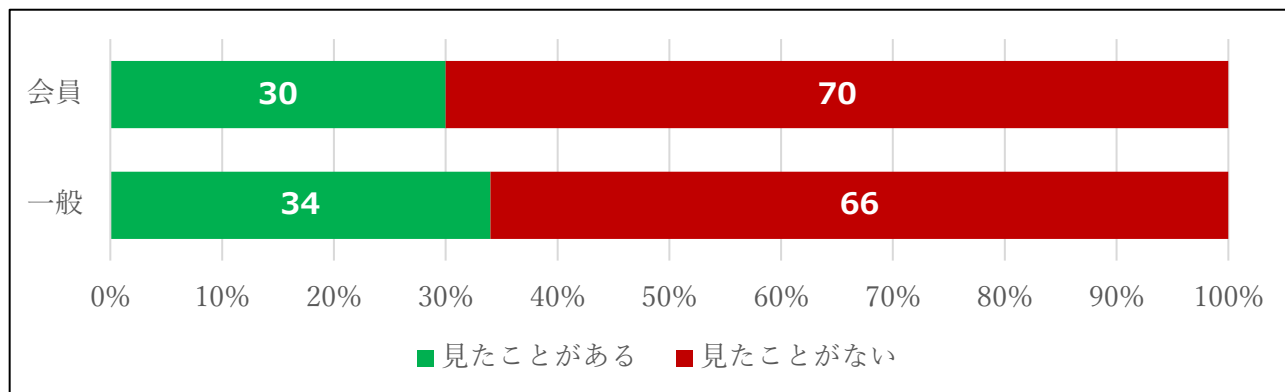
③標識（看板）の知名度



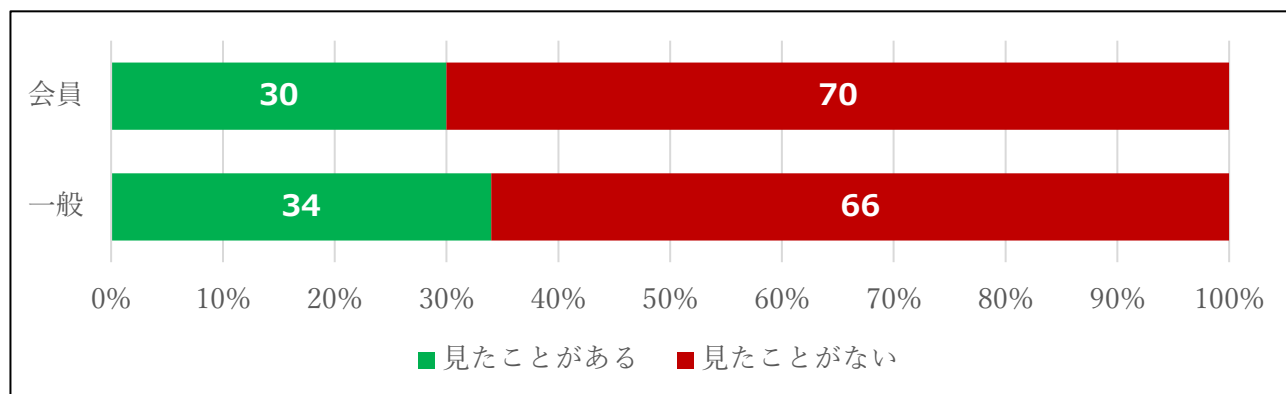
④認識度



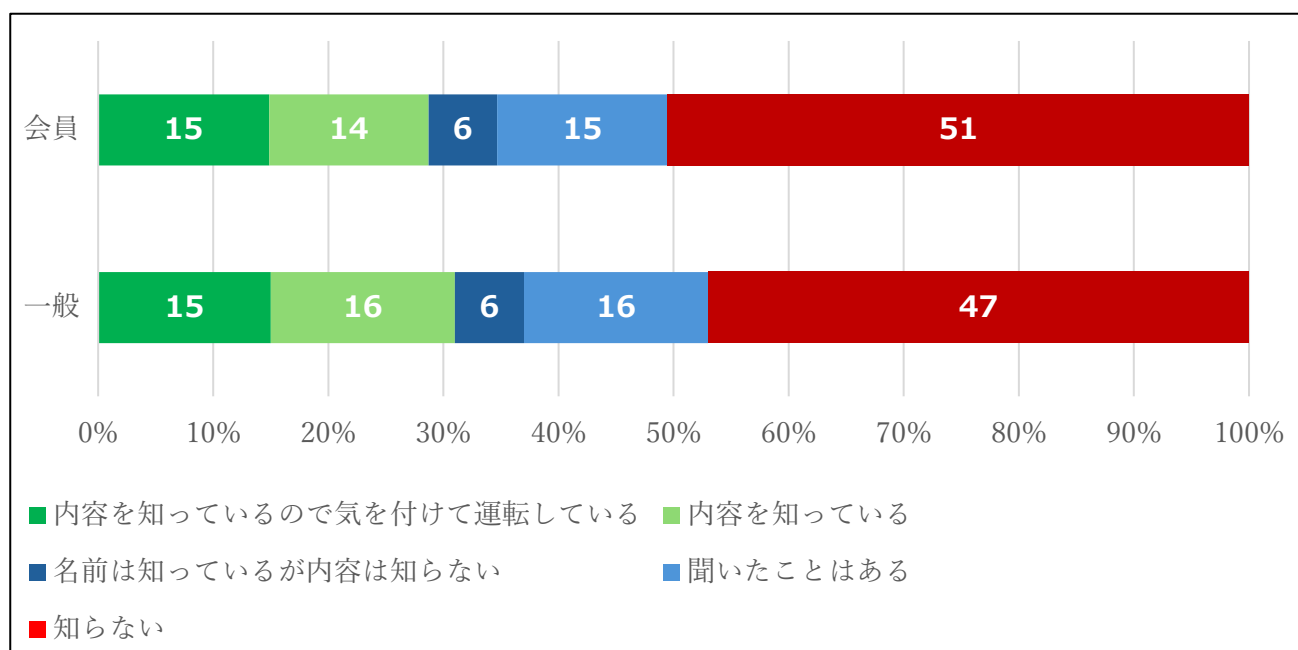
【狭さくの知名度】



【シケインの知名度】



【狭さく・シケインの認識度】



【アンケート結果のまとめ】

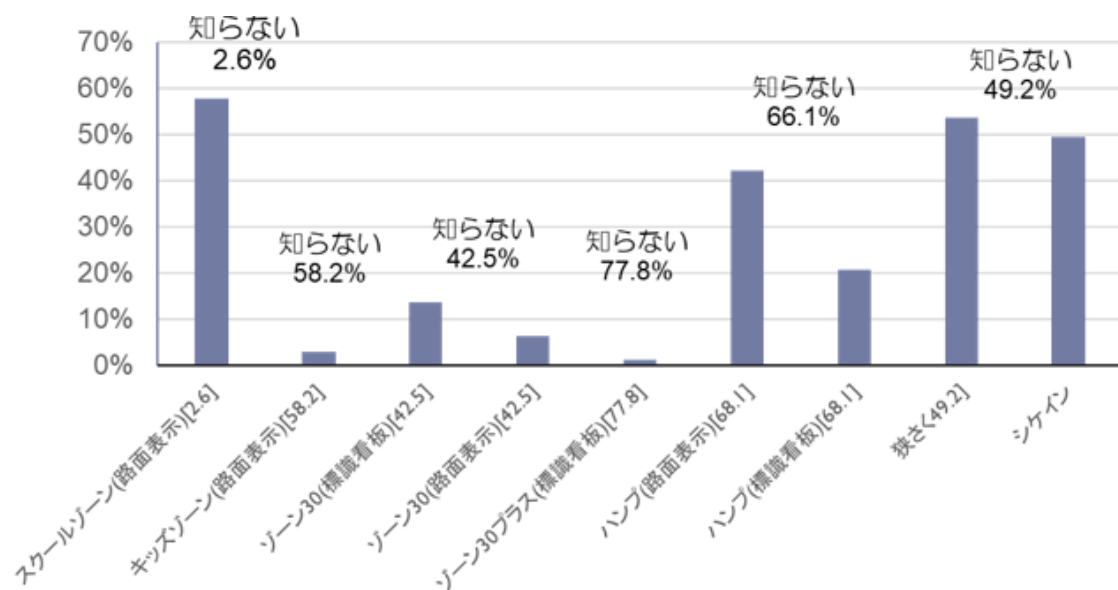
- ①スクールゾーンは定着しているが、それでも約2割は内容を知らなかった。
- ②スクールゾーンを除いては、標識（看板）・路面標示（表示）の知名度も認識度も低い。特にゾーン30 プラスと安心歩行エリアの認識度は極端に低い。
- しかし、ゾーン30の知名度と認識度は比較的高い（40%程度）
- ③標識（看板）・路面標示（表示）の知名度に比べて、認識度は相対的に低い。

⇒ 見たことはあるけど内容は知らない！

但し、スクールゾーンとゾーン30の知名度と認識度が同程度である。

	知名度（%）	認識度（%）
スクールゾーン	74.2	81.1
キッズゾーン	16.2	15.3
ゾーン30	32.4～38.3	36.5
ゾーン30 プラス	7.5	9.1
安心歩行エリア	13	—
ハンプ	32.0～55.6	21.7
狭さく・シケイン	62.8～68.2	29.4

④知名度と認識度の関連：「見たことがある」が「内容を知らない」



※スクールゾーンは知らない人が26%だが、路面表示を見たことがある人のうち6割近くは内容を知らない。

※キッズゾーン・ゾーン30プラスの標示を見た人は10%前後しかなく、認識度も低い。

※ハンプは看板より路面表示を見た人が多いが、見たことがあっても5割前後の人は内容を知らない。

⑤「運転に気を付けていること」

- ・スクールゾーンやキッズゾーンでは、
「ゾーンに入らない」「子供に気を付けている」
- ・ゾーン30やゾーン30プラスでは、
「交通規制に気を付けている」
- ・ハンプやシケイン・狭窄では、
「速度に留意している」

⑥男性の方が女性よりも対策の認識度(知らない以外の割合)が高い。

⑦20代の男女を比較すると、「キッズゾーン」や「安心歩行エリア」に対する理解度は女性の方が高い。

⑧新しい施策については、知名度も認識度も低い